

被服一般に関する消費者問題の現状(オノ報) - outer wear一般について
 東京家政大家政 ○石久保鈴子 野崎夕穂子 猫保美知子 吉原富子
 大森和子

目的 我達の周囲には、数多くの製品が出回っているが、より良い生活を営むための我達自身の選択が可能であるかどうかということが重要である。又、同時に多くの諸問題に直面せざるを得ない。そこで本研究では、マスコミにあげた消費者問題関連記事等から現状把握を試み、衣生活においてどのような問題があるか、更にそれらの内容を分類することを目的とする。

方法 朝日、日本経済、毎日、読売新聞などの衣生活部門における「outer wear一般」に関する消費者問題関連記事を項目ごとに抽出した。

結果 「outer wear一般」についての消費者問題関連記事を分類すると婦人服、紳士服、子供服、和服および毛皮等となり、問題項目としては表示、価格、安全性に加え着蓋の観点から着心地、耐久性、審美性等が列挙された。おしゃれ用として着用されている傾向にある毛皮製品の需要が増加の傾向にあり、保管、手入れ等の問題点もあけられた。又、それらを購入するための予備知識、情報等に関する記事のウエイトが大きかった。昭和57年頃から全般的に消費者に対するサービス、情報提供といったソフトウェア的側面が見立つ傾向を示した。